

二十七度  
四十五度

喬 林  
禁 伐 林

地質輕鬆或ハ瘠惡ナルトキハ擇伐作業ヲナス

即チ傾斜ノ度ニ依リテ其限界ヲ定ムレハ田圃耕作ヲ完全ニナシ得ヘキハ傾斜五度マテニシテ七八度ニ至レハ其面積廣ク其地質輕鬆ナルモノニアリテハ其相當ノ設備ヲ要ス既ニ十度内外ニ至レハ其地質ノ如何ニ關セズ田圃耕作ヲナス能ハス僅ニ果樹園トナスヲ得ルノミ農家ハ宜シク此等ノ關係ニ注意シテ開墾企圖シテ自己ノ利益ヲ作ルト共ニ國益ニ注意セサルヘカラス

夫一人ノ利ハ以テ萬人ノ害ニ換フルコト能ハス十年ノ益ハ以テ百世ノ損ニ換フルコト能ハス若シ風土氣候水害等ニ關シ森林荒廢ノ爲メニ邦國ニ大害ヲ及ボサントスルノ虞アマニ當リテハ公利公安ヲ保持スヘキ義務ト權利ヲ全有スル國家ニシテ何ヲ以テ之ヲ放任シ置クヲ得ンヤ

邦土ノ形勢山林ノ實況ヨリ風土國情ニ至ルマテ我國ニ相似タリシト云フ彼ノ伊太利國ノ森林法ヲ見ルニ曰ク森林及樹木ナキモ栗樹帶最上ノ境界外ニ存在セル山頂山腹ハ之レヲ保安林トシ又其位置ト地質トニ從ヒ或ハ斷崖壁ノ地或ハ溪谷又ハ凹窪ノ地或ハ土砂堆積シテ阜陵トナルノ地其他天變地異ニヨリテ河流ヲ變更シ或ハ土壤ノ素質ヲ敗損シ或ハ公衆ノ衛生ヲ妨害スルノ土地モ總テ之レヲ保安林ニ編入シ一切斫伐開墾ヲ禁セリ然レトモ若シ所有人ニシテ災害ヲ防遏スルノ處法ヲ豫定シ其處法タルヤ地方森林會ノ許可ヲ受クルニ於テハ之レヲ斫伐開墾スルノ許可ヲ與フルコトトセリ

其他歐洲各國共ニ森林開墾ノ制限ヲ設ケサルハナシ佛國ノ如キハ所有財產ノ利用ニ對シテハ深く制限ヲ置カサレトモ森林開墾ニハ制裁ヲ設ケタリ且森林ヲ開墾シテ耕地トナシタルモノニハ同格ノ耕地ヨリ四分ノ一ノ重稅ヲ課セリ又巴威里ニ於テハ森林所有主ハ唯目前ノ利益ノミニ汲々タレハ之レヲ保護

スル爲メ其開墾ヲ許ス場合ハ森林ヲ變シテ耕地トスルトキハ從前ヨリ一層大ナル利益ヲ得ルノ時ニアリ又僅ニ一二年間農業ヲ行ヒ地方ヲ衰弱スルノ土地嶮岨地雪崩レノ恐アル地暴風雨ノ農業地及他ノ所有主ノ森林ヲ侵害スル場所飛砂地水源ノ存在スル場所河岸崩壞スル場所ハ政府ニ於テ森林ヲ農地ニ變換スルコトヲ許サス且皆伐ヲ禁止セリ而シテ總テノ開墾ハ森林警察上ノ檢査ヲ受ケ森林家ノ意見ニヨリテ許否セサル、故ニ假令ヒ所有主ハ其開墾ヲ正當ナリトスルモ森林官ノ否認スルトキハ之レニ服從セサルヘカラス自由ヲ以テ誇ル歐洲諸國ニシテ森林開墾ヲ恐レ其所有權ヲ抑壓スルコト此ノ如シトスレハ其危害ノ大ナルモノアルコト知ルヘキノミ我國ニ於テハ森林開墾ハ明治三十年四月六日法律第四拾六號森林法第六條ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケサル可サルコトトナセリ而シテ其森林法ニ開墾ト稱スルハ地租條例ニ所謂開墾(第二類地即池沼山林牧場原野雜種地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地即田畑宅地掘田鑛泉地トナスモノヲ開墾ト云フ)ノ外加フルニ燒畑切替畑並ニ地目變換(第一類地又ハ第二類地中ノ各地目變換スル地目變換ト云フ)ヲ以テスルモノニシテ其意義甚廣シトス當局者ハ如何ナル程度ニ於テ此ノ廣意ナル開墾ノ許可ヲ取捨セントスルカ開墾ノ許可ハ一ニ當局者ノ頭腦ニヨリ決定セラレ他ノ容喙ヲ許サルナリ故ニ從テ之ヲ許否スル處ノ標準ハ各府縣ニ於テ異ナルヘク其間自ラ寬嚴アルヘシト云ヘトモ今日ニアリテハ寬ニ失セシヨリハ寧ロ嚴ナラサルヘカラス是我國ニ於テハ維新以降森林ノ荒廢甚クシク各地共ニ風水害ニ苦シミ薪炭及用材ノ供給ハ需用ヲ充タスニ足ラズ植林ノ必要目前ニ迫レリ加之ナラス保安林ノ區域未タ確定セズ森林ハ益荒廢セントスルノ傾向アリ何ソ其荒廢ノ誘因タル開墾ヲナスノ餘地アランヤ故ニ余ハ先ツ保安林ノ地域ヲ確定シ植林ヲ獎勵シ設備全ク成ル後ニ於テ開墾ノ許可ヲ決定スルヲ以テ國家ノ爲メ利益アリト信ス若シ其施設ノ前ニ於テ強テ開墾ヲナサントスルトキハ止得ス其制限チ一層嚴重ニナササルヘカラス是レ國家生存上必要ナル處置ナリトス土地ノ開墾ハ古來官民共ニ無上ノ國利民福ト信シタリ故ニ森林開墾ノ危害ヲ他ニ及ボスコトニ思ヒ到ラス往時ノ



各藩競フテ開墾ヲ獎勵シ只其及カルコトヲ憂ヒタルノ狀アリ其餘弊猶今日ニ存シ其利害ヲ考究スルモ  
ノ少ナシ實ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ之レ余カ本論ヲ草シ縣下ノ同胞ニ告ケル所以ナリ若シ夫年々巨萬ノ  
經費ヲ河川改修及砂防設備上ニ消費スルノ止ムヲ得サルヲ思ヘハ誰カ余カ開墾制限論ヲ否認スルモノ  
アラシヤ

渥美郡和地村公有林整理

縣下渥美郡和地村ハ三十四年度ヨリ村有山林整理造林ニ着手シ爾來事業進行中ニテ其山林取扱規程ハ  
左ノ如シ

和地村々有山林取扱規程

第一條 本村基本財産ヲ増殖シ村ノ獨立ヲ鞏固ナラシムル目的ヲ以テ本規程ヲ設ク  
本村有山林ハ本村基本財産ノ重ナル部分ニシテ其取扱ノ良否ハ收益ニ大關係ヲ及ボスモノナルモ現  
今ニ至ルマテ準備スヘキ良好ノ規程ナク放任シ置キシヨリ全山一ノ成木ナク去ル三十三年以來山林  
内ニテ産物ノ採收ヲ禁シ徐々ニ森林ノ成立ヲ企圖セシモ未タ適法ノ處置ト認ムヘカラサルヲ以テ本  
規程ヲ設クル必用ヲ來セリ

第二條 本村有山林ノ内造林計劃ノタメ測量セシ部分ハ左ノ行爲ヲ禁ス

山林事業ハ利益ヲ永久ニ保續スヘキ性質ヲ有スルモノニシテ事業ヲ整理スルタメニハ幾多ノ歲月ヲ  
費サバルヘカラス然ルニ村ノ輿論ナルモノハ時々變潮アルヲ免カレサルモノナレハ本條ノ如ク行爲  
ニ制限ヲ付スルコトヲ要ス

林地賣却ノコト  
林地讓與ノコト

買賣讓與共ニ離權ノ處分ニシテ輕々ニ處理スヘカラサルコト勿論ナレトモ輿論ノ變調ト全時ニ是レ  
等ノ議論ナキヲ保スル能ハス現時ハ必要ヲ認メサレトモ未來ヲ考慮シテ特ニ挿入セリ

貸地又ハ地上權ノ分割

將來ニ於テ若シ山林ノ利益ヨリ多キ賃料ヲ出シテ借地ヲ求メ又ハ他ノ目的ニ使用ノタメ林地一部ノ  
地上權獲得ノ要求アリタル際運動或ハ緣故ノタメ管理者ノ意志ヲ動かカサル、事無キニ限ラス然ルニ  
永久保續ノ目的ヲ以テ計劃セシ業務ヲ一部ノ變業變更ノタメ全體ニ影響スルモノナレハ豫メ禁止セ  
サル可カラス

林業經營ノ目的ヲ以テ林地全部ノ借入ヲ己人ヨリ求ムルトキト雖モ基本財産管理上許容スヘキモノ  
ニ非ス

當時或町村ニ於テハ公有山林ノ地上權ヲ或年限内各自ニ分割使用セシムル箇所アリ本村ニ於テモ往  
時ハ此事アリシヲ輒近回收セシモノニシテ分割ヲ主唱スルモノヲ出スヤモ料ラレス仍テ豫メ本條ニ  
ヨリ防止ス

林地又ハ立木ヲ抵當トシテ使用スルコト

保續的作業ヲ主要トスル林業ノ性質トシテ他ノ條制ヲ受クヘカラサルモノナレハ法律ニ依リ契約履  
行ノ責アル條約即權理ノ擔保トシテ供スヘカラス若シ不幸ニシテ債權者ノ手ニ販シ隨意ノ行爲ヲ施  
サル、キハ幾多ノ年月間刻苦シテ漸ク緒ニ就キシ事業ハ爲メニ破壊セラル、不幸ニ遭遇スル場合ナ  
キニ限ラレス

但本村有ニカ、ル灌溉用水溜池道路ノ構梁學校役場避病院敷地及ヒ埋火葬地ニ充用スルハ此限ニ  
非ス

第三條 本村有山林造林及ヒ斫伐事業ハ別冊和地村山林事業基案ニ準據ス



凡營林事業ハ意旨ノ繼續ヲ尤モ必要トスルモノニシテ管理者ノ變更アル毎ニ計劃ヲ改訂スルトキハ到底完全ノ結果ヲ得ル能ハサルモノニシテ假令管理者其人ハ惣テ林業上ノ智識ヲ備ヘタリトスルモ尙計劃改廢ノタメ事業ノ蹉跎ヲ免レス況ヤ斯業ニ經驗ヲ有スルモノ少キ際ハ豫メ準備スヘキ事業上ノ精神及手續ヲ規定シ是レニ服從セシメサル可カラズ

事業基案ハ十ヶ年毎ニ是レヲ編成ス

本村有山林ハ向フ十ヶ年ヲ期シ造林ヲ完成セシムルモノニシテ第一期ノ事業基案ハ殆ト造林豫定案ノ性質ヲ有シ第二期ヨリハ間伐及小部分ノ主伐其他ノ手入間伐等規定スヘキ種類ヲ異ニシ又一方ニハ森林ノ智識日進ノ今日遠キ未來ヲ拘束スル規定ヲ設クルハ策ノ得タルモノニ非ス依テ十年毎ニ編成スル目的ナリ

第四條 事業基案ハ左記ノ各號ヲ規定ス本山林取扱規程ハ主ニシテ事業基案ハ從ナリ仍テ基案ノ效力及條項ハ本規定ニ於テ拘束セサルヘカラス

一 作業種ノ選定

本基案ニ採用セシモノハ黒松喬林樟櫟中林及櫟檜矮林作業ニシテ作業種ノ選定ハ林業上主腦ナルモノ、一ナリ

一 造林計劃及手續

山地移植苗木養生等ノ事業ヲ規定ス

一 林木伐採ニ關スル件

造林地整理ノタメ稚樹ノ伐採又ハ手入間伐トシテ未成樹ヲ伐採スル等ノ場合並ニ主伐木ノ年齢及時季等ノ規程ヲ要ス

第五條 主伐ハ立木ノ儘公賣ニ付シ間伐ハ村ノ事業トシテ伐採ヲ行ヒ賣却ス

主伐ハ伐採齡ニ達シタルモノヲ斫伐スルモノニシテ樟櫟中林ナレハ下木櫟ヲ皆伐シ或ハ最後ニ樟櫟共皆伐スル如キ松喬林ニ付キテモ當初用材木ヲ斫シ薪材ヲ皆伐シ又ハ最後皆伐スル如キ作業ニシテ其伐材方ノ如何ハ林地ニ大ナル影響ヲ及ボサルモノハ直ニ公賣ニ付シ代金ヲ收得スル方簡便ナリト雖モ間伐ノ如キハ手入間伐洗ヒ切等林木養生ノタメニ施行スルモノニシテ直接ノ收益ヲ目的トセサルモノナレハ村ノ事業トシテ賦役又ハ人夫ヲ指揮シテ施行スヘシ

主伐木ハ前項ノ如ク取扱簡ナルモノナレハ其實却處分ハ尤モ公明ナラサルヘカラス仍テ絶對的公賣ニ付スルコトニ規定セリ

間伐木ト雖モ勿論公明ナル取扱ヲ要スルモノナレトモ主伐木ノ如ク多額ノ價值ヲ有セス而シテ賦役ヲ課シテ間伐セシ薪材ヲ分收セシムル場合モアルヘク此際ハ賦役ヲ現金ニ換算シ薪材代價ト認ムヘキモノニシテ隨意賣却セシト同一ナリ

第六條 山林收入ハ村稅ヲ以テ仕辨スル費途ニノミ充用ス本村山林ヘハ樟ノミニテモ十年間毎年一萬七千余本ヲ栽植シ内一萬本宛普通ノ生長ヲ遂クルモノトスルモ六十年后ハ目通り五尺回ノ大木一萬本ヲ得一本ノ代價平均貳拾圓ヲ得レハ年々貳拾萬圓ヲ得ル計算ナリ假リニ其四分ノ一トスルモ十年間ハ毎年五萬圓宛樟ノミニシテ收入シ其他松櫟等ニテ得ル所ヲ合スレハ頗ル鉅萬ノ金額ニ達スルモノナレハ是レカ使用ノ目的ヲ豫メ指定シ置カサル可カラズ依テ左ノ費用ノ外一切充用セシメサルモノトス

山林事業費村役場ノ經費學校費病院設置道路開繕若シハ村ノ費用ヲ以テ設立又ハ義捐ヲ要スル各種ノ慈善事業實業敎師傭他府縣ヘ留學費ノ補助等

第七條 山林事業ニ要スル經費ハ村稅ヲ以テ支辨ス  
毎年ノ造林費用ハ約壹千圓ナレトモ内種子購入代ト苗圃借入賃トヲ合セテ(種子代二三、二五〇)借地



料三三、〇五二五拾六圓余ヲ控除シ八百四拾四圓迄ハ勞力賃金ニシテ一日參拾五錢ナレハ約貳千四百人毎戸ヨリ春季植付ノトキト夏季手入刈ノ際兩度ニテ十人役宛勞働ノ供給ヲ要スル迄ニテ金額ハ頗ル多額ノ感アルモ實際ノ負擔ハ堪ヘ難キ底ノモノニハ非ラスシテ尙愛知縣廳ヨリ一町歩ニ付拾圓以內ノ額ヲ以テ補助金ノ下付アル筈ナレハ右ノ出役者ニ多少ノ賃金ヲ支給シ得ルモノナリ  
 山林收入ハ村税ノ支辨ニ充用スルモノナレハ事業費モ亦村税ヲ以テ支辨スルコト勿論ナリ  
 造林補助金賞勵金義捐金ヲ收納スルトキハ村ノ收入トス  
 整理造林補助規程ニヨリテ補助金ノ下附ヲ受ケタル際若クハ實業賞勵ノ目的ヲ以テ官廳又ハ團體等ヨリ金品ノ寄贈或ハ己人商會等ヨリ苗木種子等ノ寄附ノ收納スルコトアラン已ニ事業費ハ村税ヲ以テ支辨スル上ハ是等ノ收入ハ惣テ村ノ經濟ニ移スヘキモノナリトス

第八條 山林事業經營及ヒ事務整理ノタメ山林委員ヲ置ク

最初ノ十年間ハ重ニ造林上ノ事業ニシテ毎年壹千圓以上ノ經費ヲ使用スルモノナレハ事業ノ指示督勵事務調理ノ爲メ委員ヲ要ス  
 山林委員ハ村長村會議員及惣代世古長ヲ以テ之ニ充ツ  
 山林事業ハ全然村ノ事業ニシテ村長以下ノ吏員ヲシテ其業務ヲ指示監督セシメ事業ヲ整理セシムルハ當然ナルイミナラス特ニ村吏外ニ委員ヲ選任スルトキハ新ニ選舉ノ手數ヲ加ヘ又相當ノ報酬ヲ與フル等無用ノ煩勞ト費用ヲ投セサルヘカラサルモノナレハ當該村吏員ヲ任用スルハ尤モ便利ナリトス  
 山林事務ヲ村役場ニ於テ扱フタメ特ニ事務繁忙ヲ加ヘタリトノ感アルトキハ吏員ヲ增加スルモ可ナリト雖モ當分ハ重ニ造林上ノ事業ノミナレハ春季一時ハ事務増加スヘキモ其他ハ敢テ平常ニ異ナラサルヘク亦將來伐木ト造林ヲ兼テ行フ際ハ無論繁忙ナルニ相違ナク其際ハ山林收入増加ノ場合ナレ

第九條 委員ハ年度改始ノ際本山林内ニテ各自家用薪材ノ採取箇所及方法ヲ公示スヘシ

事業基案ニハ當該年造林地内ノ天然生雜樹五年以上ノモノ又ハ枯枝等隨意採取ヲ許ス條項アリ是レ等ノ場所ハ自家用燃料ニ困難ヲ感スルモノニ採取セシムルタメ豫メ告示スヘシ  
 事業基案ニハ落葉ノ採集ヲ全然禁止アレハ本條ニヨリ薪材採取ノ方法ノ指示ヲ要ス假令ハ「第何號地ハ齡五年以上ノ天然木採取ヲ許ス」「何號地ハ内イ印地ハ枯枝ノ採取ヲ許ス」等ノ類ナリ  
 公有山林ヨリ全然燃料ノ採取ヲ禁止スルトキハ自己ノ山林ヲ有セサルモノハ隨分困難ヲ感シ從テ多少ノ反抗ヲ起シ結局山林事業ニ不利ナレハ何人ニモ大ナル苦痛ヲ與ヘサル手段ヲ以テ山林ノ改良ヲ計ラサルヘカラス

第十條 委員ハ事業基案ニ依リ明年度ノ山林事業案ヲ調成シ村會ニ報告スヘシ

事業基案ハ動カスヘカラサルモノナレハ全基案ニ據リ來年度斫伐造林等ノ事業豫定案ヲ調製シ費用ヲ要求スルモノニシテ事業ノ伸縮ハ村會ノ權能ニ屬セサルモノナレトモ決議權尙村會ニアリトスレハ時ニ或ハ費用ノタメ事業ヲ阻止セラレ又收入ノタメ斫伐案ヲ變更セラル、等ノ場合ナキヲ保セス依テ委員ハ單ニ或期間内ニ事業案ヲ村會ニ提出スルトキハ村會ハ費用ノ支出ニ應セサルヘカラス只賦役トシテ課スルカ現金ヲ徵收スルカハ村會ニ一任スル迄ヲ本條ニ規定ス

第十一條 委員ハ林業補助金ノ下附及造林計劃ノタメ技術員派遣ノ申請手續ヲナスヘシ

三十四年二月本縣告示林業補助金下附規程ニハ整理造林ヲ行フトキハ補助金ヲ下附シ尙申請アルトキハ造林事業計劃ノタメ技術員ヲ派遣シ劃策セシムル旨ヲ公示シ後段ノ申請ハ全年三月三十一日迄ニ差出スルコトヲ要ストアレトモ其以後ハ申請スヘカラサルモノニアラサレハ後來何時ニテモ申請シ得ヘモノニシテ是等ノ手續キハ委員ヲシテ取扱ハシムルモノトス



第十二條 委員ハ左ノ帳簿ヲ調製シ事業ノ經過ヲ登錄スヘシ

山林事業ハ効ヲ永久ニ保續スルモノニシテ其事業ノ消長經濟上ノ變動等明細ニ登錄ノ必要アリ

山林事業誌 永久繼續

山林變業ノ經過及經濟界ノ趨勢ヲ大體ニ就キ登錄ス

苗圃誌 全上

苗木養成事業ハ總テ實驗ヲ積ミタル上ナラサレハ熟練セサルモノナレハ毎年ニ至リ當初ヨリ事業ニ要セシ資本及收入ノ明瞭ナラシメ全時ニ後人ノ参照ニ供ス

山林事業收支明細帳 毎年度調成

前號ハ收支ノ總計ヲ登錄シ本號ハ賦役雇人苗木種子雜費等總テ細微ニ亘リ登錄シ來年度豫等編成ノ参照ニ供ス

以上帳簿ノ記載例ハ別冊ノ通りニ之ヲ定ム

委員ノ交代毎ニ各自ノ意旨ニヨリ記帳スルトキハ繁ニ流レ簡ニ失スル等ノ恐アレハ豫メ記載例ヲ一定スルノ必要アリ

第十三條 委員ハ豫メ山林被害防備ノ手續ヲ規定シ置クヘシ

父災盜伐蟲害風害等森林ニ關スル諸害防備ノ手續ヲ規定シ置キ有事ノ日ニ於テ過誤ナカラシムコトヲ要ス

第十四條 本規程ハ本村有財産ノ共有權ヲ有スルモノ全體ノ協賛ヲ得ルニ非サレハ追加若シハ改廢スルコトヲ得ス

本規程ノ内ニハ技術ニ關スルコト町村行政ニ關スルコト等全ク村ノ輿論ヲ以テ左右シ難キ條項多クナレバ村會ハ決議而已チ以テ直ニ改訂ヲ許スヘカラサルモノニシテ本條ノ如ク規定ス

第十五條 本規程ハ本村有財産共有權所有者全體ノ調印ヲ終テ後効力ヲ有ス

本規程ハ山林事業ハ性質方針等ヲ決定指導セシモノニシテ委員ノ報酬被害取締費用ノ徵收賦課法等細目ニ互ルモノハ惣テ村會ノ決議ニ一任シ以テ時世ニ背反セシメサルヲ要ス

第十六條 本規程ノ末尾ニ各記名調印ノ上正本二通ヲ作り村役場及ヒ山林委員長ノ私宅ニ保管セシム

萬一ノ過失ニヨリ本規程ノ亡失毀損等ノ場合ヲ考料シ特ニ正本貳通ヲ作成ス

以上

年 月 日

田中安太郎外二百八十二名署名捺印セリ

東加茂郡生駒村ニ於ケル公有林整理狀況

生駒村ハ東加茂郡ノ西北ニ存在シ北ハ矢作川ヲ界シテ岐阜縣ニ接ス地勢概シテ急峻地質約子良好ニシテ最モ林木ノ生育ニ適セリ而シテ全面積ノ八割七分ハ悉ク林地ニ屬シ其内七百町步餘ハ各大字ノ公有林ナリ由來山林ノ經營ヲ放棄シタル結果採草地ニアラスンハ矮少ノ天然雜木ヲ以テ占メラレタリ明治三十年安藤眞一郎村長ニ就任シテ以來孜孜公有林整理造林ノ衝ニ當リ二三有志ノ援助ヲ得テ實測面積四百餘町步ニ對シ部分木地上權ヲ設定セリ今其樹裁規約及地上權設定ノ契約書ヲ左ニ掲ク

生駒村區有山林樹裁規則

第一章 樹裁地區分

第一條 各大字區有山林總反別ノ内六步樹裁地四步藪稜柴草地トス

實地調査ノ上五厘以內ノ増減ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ區分ヲ定ムルニハ委員ヲシテ實地ヲ調査セシメ村會之ヲ定ム



但シ一筆地内サニ區ニ爲スコトヲ得  
 第三條 前條末項ノ場合ニ於テハ其區劃ヲ判明ナラシムル爲メ圖面ヲ調製スルモノトス  
 第四條 樹栽地ト蕪林柴草山ト第二條決定ノ上ハ臺帳ヲ調製スルモノトス  
 但シ左ノ難形ニヨリ大字名字番反別ヲ登記スルモノトス

|  |   |
|--|---|
| <p>明治 年月 日</p> <p>樹栽地 臺帳</p> <p>東加茂郡生駒村役場</p>  | <p>國郡村大字</p> <p>字番 何大字持</p> <p>一山林反別何町步</p> <p>國郡村大字</p> <p>字番 何大字持</p> <p>一山林反別何反步</p> <p>反別何畝步樹栽地</p>   |
| <p>明治 年月 日</p> <p>蕪林柴草地臺帳</p> <p>東加茂郡生駒村役場</p> | <p>國郡村大字</p> <p>字番 何大字持</p> <p>一山林反別二町步</p> <p>壹町二反步蕪林柴草山</p> <p>同郡村大字</p> <p>字番 何大字持</p> <p>一山林反別五反步</p> |

第二章 樹栽

第五條 樹栽地ハ杉檜ノ二種ヲ以テ混合林ニ植込モノトス

第六條 一分ノ部分金ト前納借地料トニヨリ日本臣民ハ貸附借地料ノ入札ヲ爲サシムルモノトス  
但入札方法ニヨルモ借地料寡額ナルトキハ貸附セサルコトアルヘシ

第三章

第七條 各大字ニ一名大字牛地二名ト定メ本村住民中ヨリ村會之レヲ選任ス

但委員任期滿三ヶ年トス滿期再選スルコトヲ得

第八條 委員ハ村長ノ指揮ヲ受ケ此規則上諸般ノ事ヲ掌ル

第九條 委員ノ就任辭任ハ普通委員ノ例ニ據ル

第四章

第十條 委員手當ハ本村役場雇生日給額ヲ同支給法ヲ準用シ給ス用務ノ爲他ハ出張スルトキハ本村役場吏員旅費支給規則ヲ準用シ本村役場吏員旅費額ヲ支給ス

但林業視察ノ爲メ他府縣へ出張スルトキハ特ニ支給額ヲ定ムルコトアルヘシ

第十一條 本則ニヨリ收支スル經濟ノ方法ハ別ニ定ム

附則

第十二條 本則ハ明治三十一年九月一日ヨリ實施ス

地上權設定地代及部分木植付契約書

三河國東加茂郡生駒村大字何々字何々何番第何號

一山林反別何町何反何畝何步



此實測反別何千何百坪

右山林管理考愛知縣東加茂郡生駒村長安藤真一郎ヲ甲トシ何縣何郡何村大字何々何某ヲ乙トシ甲乙ノ間ニ於テ本山林ノ使用並ニ杉檜樹ノ植付契約ヲ締結スル條項左ノ如シ

第一條 本山林ヲ前地代金何圓何拾錢ト第十七條ニ定ムル一部ノ部分木トニヨリ甲ハ乙ニ造林ノ爲メ使用ヲナサシム

此ノ期限ハ本年ヨリ起算シテ五十ヶ年トス

但其期限ハ曆年ヲ以テ計算ス

第二條 本契約ノ年ヨリ五十ヶ年經過ノ後ハ此契約ハ當然其効力ヲ失フモノトス

第三條 第二條ノ場合ニ於テハ其山林返還ノ爲メ別段授受ノ手續ヲ履行セス期限滿了ト全時ニ乙ヨリ甲ニ返還シタルモノトス

第四條 第三條ノ場合其地上ニ乙ノ所有ニ屬スル物件ノ殘存スルトキハ乙ハ其所有權ヲ放棄シタルモノトシ甲ハ之ヲ收得ス

第五條 植付樹木ノ種類ハ杉、檜ノ二種ニ限ルモノトス

第六條 乙ハ本契約ノ年ヨリ三ヶ年以内ニ植樹ニ着手シ七ヶ年以内全部植付ヲ終了スルモノトス

但曆年ヲ以テ算ス

第七條 植付本數ハ杉何本檜何本トス

(實測反別壹反歩ニ付上ノ百本トス)

但シ植付ニ着手シ土地狀況等ニヨリ交互木種ノ變更ハ乙ノ隨意トス

第八條 樹木ノ植付ニ着手シ前條本數ノ増減必要アリト認ムルトキハ甲乙協議ノ上前條本數ノ參倍増全上二分減ノ範圍ニ於テ増減ヲナスコトヲ得

此場合ニハ甲ノ指定スル書式ニ據リ變更本數ノ書面ヲ乙ハ甲ニ提出スルモノトス

第九條 植付ニ要スル杉檜苗ハ三年以上五年以内相當ノ方法ヲ以テ養成シタル良苗ヲ用ヒ春期植付ク

ルモノトス

但シ植込タル木種本數ハ其年六月迄ニ乙ヨリ甲ニ報告スルモノトス

第十條 植付ノ後三ヶ年間ニ於テ枯死シタルモノハ其翌年春季必ス補植シ原植付ノ本數ニ充タシムルモノトス

第十一條 植付ノ樹木ハ其年ヨリ向七ヶ年ノ中最初三ヶ年間ハ毎年二回後四ヶ年間ハ壹回ツ、雜草刈拂(下刈トモ云フ)ヲナシ刈拂停止ノ翌年ヨリ向フ三ヶ年間藤葛ヲ切り取り保護スルモノトス

第十二條 防火手當ハ年々融雪ノ候相當方法ヲ以テ設備スルモノトス

第十三條 間伐ハ最初植付ノ年ヨリ拾五年目ニ於テ植付本數ノ二割ヲ爾後殘存本數ノ一割ヲ每五年目伐採スルモノトス

但年數ノ起算ハ植付最後ノ年ヨリ曆年ヲ以テス第一回間伐期前ニ於テ最初植付木ニ對シ必要アル場合ハ臨時間伐ヲ爲スコトヲ得此間伐ハ回数ニ算セサルモノトス

第十四條 賣木其他必要缺クヘカラサル事情アルトキハ第二條ニ定ムル期限ヲ二十年以内延長爲スコトヲ得尙以上ノ更新ハニ甲ノ任意トス

第十五條 樹苗ノ代金及植付費手入費保護費其他本事業ニ附隨スル一切ノ費金並ニ事業ノ施設ハ總テ乙ノ負擔トス

第十六條 皆伐ハ第二條ニ定ムル期限二年前ニ着手シ期限内ニ伐採搬出スルモノトス

但期限前ト雖モ皆伐ノ必要アリト甲乙ニ於テ認ムルトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條 植付木部分收得ノ割合ハ總伐積ニ對スル相當價格ノ十分ノ一ハ金員ヲ以テ乙ヨリ甲ニ納付



シ乙ハ總材積悉皆ヲ取得スルモノトス  
 相當價格ハ甲乙ノ協定ニヨルモノトス  
 第十八條 材積ノ調査ハ乙ニ於テ爲シ甲ニ報告スルモノトス甲ハ調査ニ立會テ爲シ又ハ再調査ヲ爲ス  
 コトヲ得乙ノ報告伐採着手前ニナスヘキモノトス  
 但乙ハ立木ノ儘賣却セシムルトキハ甲ノ承諾ヲ要ス此場合ニハ賣買價格ニヨルコトヲ得  
 第十九條 第一回十五年目第二回二十年目及第一回前臨時間伐ハ乙ノ所得トシ第三回以後ニ係ル間伐  
 木及被害木ハ第十七條第十八條ノ例ニ依ル  
 第二十條 植付前地上ニアル生枯ノ物件ハ總テ乙ノ所有ト見做ス  
 第二十一條 植樹ヲ終リタルトキ乙ハ即時ニ其區域ノ周圍見易キ場所ニテ所以上植付年月日及木數木  
 種ヲ記入シタル標杭ヲ建築シ字體不明ニナリシトキハ之カ建替ヲナスヘシ  
 第二十二條 左ノ場合ニ於テハ本契約ハ當然其效力ヲ失ヒ既ニ植栽シタル樹木ハ總テ甲ノ所得トス  
 但本契約ノ効力ヲ失フ場合ハ其失効行為ノアリタル樹栽地ノ區域ニ止リ他ノ區域ニ及ボサルモ  
 ノトス  
 一 壹筆或ハ壹區域ニ限り契約ニ對シテハ此但書ヲ適用セス  
 一 乙ハ第五條ヨリ第十一條迄ノ各條ノ一ニ違背シタルトキ但不可抗原因ニヨリ履行スル能ハスシ  
 テ甲ノ承諾ヲ得タルトキハ此限リニ非ス  
 第二十三條 森林法、砂防法、ノ適用ニヨリ伐木ヲ制限若クハ停止禁止サレタルトキノ契約解除損害  
 補償等ニ關シテハ甲乙協議ノ上定ムルモノトス  
 第二十四條 本契約解除又ハ無効トナリタル場合ニ於テ乙ニ損害ヲ生スルコトアルモ甲ハ其責ニ任セ  
 サルモノトス

第三十五條 乙ハ本山林ニ於テ盜伐火災其他異常アリタルトキハ甲及所轄警察署ニ報告スルモノトス  
 其被害及異常ニシテ植樹部分木ニ關スルモノハ其被害ノ模様ヲ詳記シ甲ニ報告スルモノトス  
 第二十六條 天災人爲ニ因リ被リタル樹木ノ損害及訴訟ニ關シ甲乙各自ニ支出シタル費用ハ各自ノ負  
 擔トス  
 第二十七條 本契約ノ旨趣ヲ實行スル爲メ双方各取計フヘキ事項手續等ハ一々明記ナキモ各之ヲ履行  
 クスル責任アルモノトス  
 第二十八條 乙ハ本契約上ノ權利義務ヲ他ヘ移轉セントスルトキハ第三者ト連署ヲ以テ甲ノ承諾ヲ受  
 ケキモノトス  
 但乙死亡ニヨリ相續シタルモノハ其者ヲ以テ乙ト見做ス  
 第三十九條 本契約満了ノ時又ハ解除若クハ無効ニ成シタルトキハ本書相互返還消印セス無効ノ場合  
 ハ其旨ヲ乙ニ通告スルモノトス  
 右契約ヲ締結スル爲メ本書二通ヲ作り各記名調印其壹通ヲ領置スルモノ也

明治三十一年 月 日  
 土地所有管理者 愛知縣東加茂郡生駒村長 安藤真一郎  
 地上權者 何 某

三河國八名郡山吉田村ノ共有林整理  
 本縣下三河國八名郡山吉田村大字下吉田ニ於テハ今ヲ去ル十七八年前即明治十五年一月村會ノ決議ニ  
 依リ野火取締規則ヲ設ケ同時ニ私有柴草山等ヘ樹木植付規則ヲ定メテ山林ノ保護蕃殖ヲ計劃セリ之  
 全村ニ於テ從來ノ慣習トシテ共有山ニハ柴草採集ノ爲メニ野火入レヲナセルヲ以私有山林ヲ延焼スル



コト多ク爲メニ共有山ハ勿論私有山ニアリテモ樹木ヲ植栽スルモノナク肥沃ナル山地モ無益ニ放擲セラレシヲ鈴木某及豊田某之レヲ憂ヒ熱心ニ之レカ豫防計劃ヲ主唱シテ遂ニ此規則ノ制定ヲ見ルニ至リシモノナリ之ヲ第一期ノ經營ト云フ其後明治二十一年第二期ノ經營トシテ共有山草柴苜取場分配ニ付約定書ヲ設ケテ全共有七百町歩ノ内百廿町歩ハ肥料ノ爲メニ百八十町歩ハ植林ノ爲メニ都合三百町歩ヲ分配シ餘ノ四百町歩ハ共有トシテ植樹スルコトニナセリ後又明治三十年ニ至リ國界火防線植木内規及山林内規ヲ設定セリ之レヲ第二期經營トス此國界火防線ハ從來遠州地方ノ草山ヨリ延燒スルコト多キヲ以テ之ヲ豫防スル爲メナリト云フ

其經營ノ細目ニ就テハ批難スヘキ所ナキニハ非レ共大體上適當ナル處置ト云ハサル可ラス否當時ノ處置トシテハ尤モ至當ナリト信ス餘ハ之ヲ世間ニ紹介スルト共ニ鈴木豊田ノ二氏及其他有志家ニ向ツテ謝セサル可ラス其詳細ハ次ノ如シ

○野火取締規則

第一條 共有山林ニ於テ溢リニ火ヲ焚クコトヲ許サス  
但營業ノ爲炭灰燒ハ此限ニアラス

第二條 前條ノ場所ニ於テ柴草苜採方ニ付山燒セサルヨリ差支テ生スル場所ハ豫テ期日ヲ定メ各所一時ニ出願ノ上指令ヲ待テ放火スルモノトス

第三條 前二條ノ場所不時ノ出火アルヲ見認メタル者ハ直ニ近隣通知ノ上防禦ノ手配ヲナスヘシ又通知ヲ受ケタルモノモ直ニ防禦盡力スヘシ

但出火ヲ知テ防禦ノ手配ヲ爲サ、リシモノ及本條ノ需ニ應ゼサルモノハ五日以上十日以下ノ日數ヲ共有山下草苜ニ使役ス

第四條 第一條但書ノ者ハ着手前失火ノ患無之様充分豫防ヲナシ着手スヘキモノトス

但本條ノ豫防ヲ怠リ又ハ僥忽ニヨリ失火セシモノハ第三條但書ノ例ニ據リ使役スルモノトス

第五條 第一條ヲ守ラス溢リニ火ヲ焚クモノハ違約金トシテ金參圓ヲ出サシム又違約セシモノヲ知テ默許セシモノモ同様金參圓ヲ出サシム

但シ訴ヘ出ルモノニハ其實トシテ金貳圓ヲ遣ハス

第六條 前條ノ如ク定ムト雖實地施行上適當ノ廉ハ村會ノ決議ヲ以改正スルモノトス

右明治十五年一月十九日村會決議全月廿日認可アリシヲ以當時實施シ追々補設シ今日ニ至ル從來私有山ニシテ柴草生ナル場所ハ溢リニ植木スルヲ許サル慣例ナリシカ今ヤ到ル處亂伐ノ弊起リ森林變シテ兀山トナリ木材薪炭漸ク欠乏ヲ告ケントスルノ景況アリ因テ今回村内協議ヲ遂ケ植樹ヲ計劃スルニ際シ柴草生ノ如キモ既往ノ慣例ヲ解キ田畑宅地ノ障礙トナラサル場所ハ植林セシムルモノトシ規則ヲ定ムル左ノ如シ

○私有柴草生等へ樹木植付規則

第一款 私有柴草生等へ溢リニ樹木ヲ植付ルコトヲ許サス

第二款 田畑宅地其他障礙ナキ場所ヲ植林トナスハ第一款ノ限リニアラス

第三款 第二款ノ如キ障礙ナキ場所ハ其理由ヲ詳記シ且四隣持主ノ故障ナキ旨ヲ明記シタル書面ヲ以テ戶長へ届出テ認可ノ上着手スルモノトス

第四款 前各款ノ如ク假定スト雖モ實地施行ノ上差支ノ廉ハ村會ノ議決ヲ遂ケ改正スルモノトス

右明治十五年一月十九日村會決議全月廿日認可アリシヲ實施シタリ目下ニアリテハ林野山ノ區別ナキヲ以各任意ナリ當時個人ノ植木ヲ増シタル太大ナリシ

○共有山植樹並保護規則

第一條 本村共有山ノ内杉檜二種ヲ植付ルニ適當ナリト認定スル場所ヲ選定シ一戸毎ニ年々各五十本



ヲ植付ケ所有權ヲ共ニシ永安ノ基本ニ供スルモノトス  
第二條 村民ノ公選ヲ以植林委員六名ヲ置キ前記ノ場所選定方及植樹並手入方等一切ノ事務ヲ處辨セ  
シムルモノトス

但植林委員ノ處辨スヘキ事務定款ハ別ニ定ムル所ニヨル

第三條 苗木購入費ハ共有山透伐賣却代金ノ内ヨリ支出スルモノトス

第四條 苗木ノ植付人夫ハ無賃トシ各戸平等ノ負擔タルヘシ

但人夫ニ代ルニ賃錢ヲ以テスルコトヲ得

第五條 野火防方ハ最寄組合ヲ設ケ組合毎ニ一人ノ取締ヲ選舉シ該取締ノ指揮ヲ受ケ豫テ防火線路ヲ  
取リ設ケ置キ未然ニ防シノ備ヲナスモノトス

但違犯者アルトキハ本村野火取締規則ヲ適用ス

第六條 苗木植付後ノ下刈手入等ハ總テ第四條ノ例ニ據ルヘシ

第七條 此規則ニヨリ植付タル杉檜ハ成木スルモ自儘ニ伐採スルヲ許サス

第八條 非常ノ災害ニ罹リ一戸ノ存亡ニ關スル場合ニ際シ親戚隣保協議ノ上情ヲ具シテ戸長役場ヘ願  
出ヅルトキハ植林委員ノ意見ヲ問ヒ全部若クハ其幾部分ノ伐採ヲ許可スルコトアル可シ

第九條 前條ヨリ伐採シタルトキハ一株ニ付苗木三本ノ割ヲ以植林委員ノ指揮ニ從ヒ植樹ヲ爲スモノ  
トス

但シ植樹ノ苗木ハ自辨タルヘシ

第十條 前條ノ如ク定ムト雖モ實施上差支ノ廉ニハ其時々村會ノ決議ヲ經テ改正スルモノトス  
右之條々村民ノ同確守シ可キ證トシテ茲ニ記名調印スルモノ也

八名郡下吉田村

明治十五年一月廿五日

森下與作始メ二百四十一名

姓名ヲ畧ス

右明治十五年一月十九日村會決議全月廿日認可アリシヲ以當時實施シタリ

○植林委員選舉方法及給額規則

並事務定款

第一章 選舉方法

第一條 植林委員ハ本村内ニ本籍ヲ定メ相當ノ不動産ヲ有スルモノヲ選舉スヘシ

第二條 植林委員ノ選舉スルヲ得可キモノハ本村内ニ本籍ヲ定メタル戸主ニ限ル可シ

第三條 植林委員選舉會ニ關スル一切ノ事務ハ戸長又ハ指命ヲ受ケタルモノ臨時處辨ス

第四條 選舉人ハ戸長若クハ其指命者ヨリ配付スル投票用紙ニ被選人ノ氏名ヲ詳記シ會場ニ出スヘシ  
戸長若クハ其指命ヲ受ケタルモノハ選舉人ノ面前ニ於テ開封シ最多票者ヨリ漸次當選人トス若シ同

數ナルハ年長ヲ取リ同年ナレハ抽籤ヲ以當選者ヲ定ム

第五條 植林委員ノ任期ハ滿三年ト定ム  
但シ滿期再選スルモ妨ケヘシ

第二章 給額規則

第六條 植林委員中へ酬勞トシテ一年金拾貳圓ヲ支給ス

第七條 植林委員事務上ニ付キ出張スルトキハ手當トシテ一日金參拾錢ツ、ヲ支給ス

但本條並ニ第六條ノ給額ハ村會決議ニヨリ増減スルコトアルヘシ

第八條 植林委員ノ酬勞手當等ハ總テ共有山植林賣中ヨリ支出ス



第三章 事務定款

第九條 植林委員ノ事務定款ヲ定ムル左ノ如シ

第一款 共有山中ノ杉檜ニ種ヲ植付ルニ適應スヘキ場所ヲ選定シ戸長ノ認可ヲ得テ區域ヲ定ムルコト

第二款 植樹及手入ノ期日ヲ定ムルコト

第三款 苗木買入ニ關スルコト

第四款 植林地檢査ノコト

第五款 惡木並透伐木等賣却方ノコト

第六款 共有山雜收入ニ關スルコト

第七款 共有山ニ關スル計簿ヲ調整シ金錢ノ出納ヲ明瞭ナラシムルコト

第八款 木數及年曆等ヲ調査シ年々明細表ヲ調整スルコト

第十條 前條各款ヲ處辨スルトキハ其時々戸長ヘ報告スヘシ

第十一條 前條各款ノ外尙ホ植林事業ニ關シ必要ナル事件アル時ハ戸長ヘ意見ヲ陳述ス

前條々ノ如ク定ムト雖實施ノ上差支ノ廉アルトキハ時々村會ノ決議ヲ經テ改正スルモノトス

右明治十五年一月十九日村會議決全月廿日認可アリシヲ以當時實施シタリ

共有山草柴刈取場分配ニ付約定書

第一條 別紙共有山分配規則ニヨリ各戸草柴刈取場ヲ定メ餘裕地ニ樹木ヲ繁殖セシメ當村ノ基礎ヲ立ツ可キ事

第二條 地券狀ハ之レ迄ノ通り村名ニテ存シ地租ハ從前ノ通り共有金利子ヲ以テ上納不足スルキハ樹

木賣却代金ヲ以支拂殘金ハ元金ニ加ヘ各戸ヨリ出金ナカラシム可キ事

第三條 各戸草柴刈取受持場ヲ定ムル趣意ハ第一條ノ通りナレバ草柴ヲ刈取ル權利ヲ有スル迄ニテ地所ヲ左右スル權理無之事

第四條 甲乙受持場ノ界巾一尺トシ相互ニ鎌入レテナサス草柴ヲ刈殘シ又ハ中切トシ界ヲナシテ判明セシムル事

第五條 分地ニ生スル草柴ヲ見積リ書入質年季賣渡ハ勿論其年ノ草柴ト雜モ生立ノ儘賣渡スコト不相成然シ本人刈取賣却スルハ勝手タル可キコト

第六條 分配ノ地所不便ニ付甲乙交換從來已レ所持ノ山野ニテ柴草ヲ刈取分配地ハ薪山ト成シ度見込ノ者田畑近接地ヲ除キ本人ノ隨意タルヘキコト

但シ杉檜ヲ植付又ハ實生ト雖モ成長セサルコト

第七條 草柴肥料ニ用ナク薪山トナシ度モノハ田畑ノ接繼地ヲ除ク外本人ノ勝手タル可キコト

但書第六條ニ同シ

第八條 分配地ト雖モ第六條第七條ノ如ク薪山トナシタル者ハ伐採ノ時ニ限り立木ノ儘賣却スルコトヲ得レ共書入質年季賣渡ハ第五條ノ通り

第九條 前條ノ如ク規約ヲナシ草柴刈取場ヲ定ムルハ人少又貧弱ニシテ肥料ヲ得難キモノノ爲ニシ且荆棘ヲ除キ手入レヲナセハ隨テ草柴増殖シ肥料ニ富シメ且餘地ニ樹木ヲ繁殖セシムルノ見込ナレハ數年ノ后ト雖モ決シテ地所分裂各自ノ地券狀トナスノ議ヲ發スルコトヲ許サス如何トナレハ地所分裂地券狀ヲ各自ニ渡ストキハ確固タル約定ヲナシ賣ル可ラスト約スルモ所有權ヲ持タシムルトキハ身代限リノ所分又我儘者出來リテ約束ヲ用キス該地ヲ書入質等ノ事出來ルトキハ終ニ富有者ノ手ニ歸シ甚シキニ至リテハ他村人ノ所有トナリ草柴ヲ刈取リ肥料トナスコトヲ得ス斯ノ如キ場合ニ



至リテハ農事ヲ勉強スルニ由ナリ貪村ニ至リ後悔ストモ詮ナシ今他村ノ既往ヲ見ルニ確タル約束ヲ成シ賣ル可ラスト約セシモ人情チ欠キ破約スルモノアリテ金満家ノ手ニ入ルニ至ルアリ假令百年ノ后ト雖モ此規約ヲ守リ決シテ分裂地券所有ノ儀ヲ起ス可ラサル事

第十條 今後所有山林無之者又入寄留者ト雖モ新ニ差支候者有之時ハ一ケ年二度二月九月農閉ヲ見計ヒ植林委員ノ許可ヲ得テ共有山林ノ下町ヲナシ各自ノ都合ヲ得セシムヘキ事

但植林委員ノ指揮ニ背キ用木ニ害アルトキハ入林ヲ差止ムル事アルヘシ

第十一條 共有山林雜木賣却ノ跡手入レテ專トシテ下草ヲ刈取肥料ニ供シタキ者ハ植林委員ヲ許可ヲ得日時ヲ定メ刈取ルコトヲ得

但書第十條ニ同シ

第十二條 村内ニ新戸取設ケ又ハ他村ノ人ト雖モ移住等ニテ本籍ヲ定ムル時ハ一般人民ト同シク草刈場ヲ貸與ス退轉者アル時ハ村内ヘ引戻シ共有トスヘキ事

第十三條 第五條第八條ニ違反シ貸借ヲナシタル者有之發見スル時ハ分配地ヲ村方ヘ引戻シ一般ノ共有トシ違約者ハ該山ニ入ル事ヲ禁ス悔悟ノ體現ハル、ニ於テハ更ニ貸與スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ債主損毛タルヘキ事

明治二十一年十月十二日

仲原 仁 吉  
外二百四十五人記名調印

○共有山分配規則

第一條 共有山分配委員ハ村内各組壹名宛合格名ト定メ五人組下協議ノ上各五組ヨリ選舉投票壹通チ差出シ多票者ヲ以テ當選ト定ムル事

第二條 當選者互選テ以テ委員長三名ヲ定ムルコト

第三條 委員長ハ一日金拾五錢委員ハ金拾四錢臨時雇ハ金拾參錢ノ日當ヲ附與スル事

第四條 各戸ヘ分配スル山ノ立木ヲ賣拂山入費ニ充テ若シ不足スル時ハ各戸ヨリ割出ノ事

第五條 最初各戸人民ノ便宜ニヨリ字何處(舊字何處又上下)ニテ草刈場申受度ト銘々望ニ依リ纏ノ書付(用紙半紙野)ヲ其部ノ委員ヘ出サシテ其望ハ員ト反別ヲ參考シ一時ニ多ノ反別ヲ除ス壹反步或ハ

二反步ツ、トシ各所ニ殘地ヲ存スヘシ

第六條 第五條ノ如ク割賦ヲナシ猶甲乙反別ニ多少アルトキハ其小歩ナル者ニ何處ニテ不足ノ分ヲ申受付タキヤト問ヒ再ヒ書面ヲ出サシメ不足反別ヲ割渡スヘキ

第七條 第五條第六條ニ依リ第一回ノ割賦公平ヲ得タル後第二回望ヲ各戸ヨリ差出サシメ第五條第六條ノ手續ヲ以テ配當ヲ公平ヲ得タル後第三回四回ト手數ヲ厭ハス數度ニ割充ヲナシ人民ニ便利ヲ得セシメ不公平ナカラシムル事

第八條 委員ノ權理ヲ以テ此處維持ト定メス抽籤法ヲ以テ定ムルコト  
但抽籤ノ後十日ヲ限リ双方ノ都合ニヨリ甲乙交換スルハ隨意タルヘシ尤モ金錢ヲ出シ趣意立木ヲ

ナス事ヲ禁ス

第九條 第一回ノ分配ヲナシ再度ノ見込書ヲ出サシムルニ付テハ其部ノ委員ヨリ殘地ノ所在ヲ示シ見込ヲ立シムヘシ第三回四回ニ至ルモ同様懇篤ニ殘地ヲ指示スヘキコト

○共有山分配委員事務條例

第一條 委員長ハ一村ヲ總括シ委員ヲ指揮シ分配ニ不公平ナカラシメ速ニ事務整理セシムコト勉ムヘシ  
第二條 委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ組内ノ事務ヲ總括シ委員長ノ事務ヲ補助シ速ニ整理セシムコト勉ムヘシ



第三條 勤務時間ハ日ノ出日没迄トシ必晝食ヲ持參スヘシ委員長ニ於テ毎日ノ出品ヲ記載シ半日或何分ト明記スヘキコト

第四條 割山ニ關スル金錢出納ハ人民惣代ニ協議シ委員長ニ於テ負擔スヘキコト

○山林内規

第一條 下太田共有山(大字)追々伐木又植付ケタル場所モ手入行届ズ荒廢ニ至ラバ時節柄且ツ子村ヘ對シ面目ナシ依テ今般字黒淵小字田ノ島ノ内重兵衛作リヨリ奥銀山ヘ杉槍(見積凡ソ壹萬本)ヲ植付ケ追々其他ニ及ホシ並ニ前年(第一期)植付タル場所ノ切レヲ植ヘ下坊等ヲ爲シ繁殖セシムルコト但將來植付山林ハ何等ノ事情アルモ賣却セス樹木ハ伐採ノ時期ニ至レハ山林委員區長ト協議村長ノ許可ヲ得賣却スヘシ

第二條 前條ノ事業ヲ成就セシムルト大字公共財産ノ増殖ヲ圖ル爲山林委員三名ヲ設ケルコト

第三條 植付ハ人物ヲ選ミ其年相當ノ賃金ヲ以テ雇ヒ入レ町嚙ヲ極メ枯損木ナカラシメ下刈ハ入札又ハ示談受渡時宜ニ依ル尤モ植込下刈トモ雇人受雇人ナキトキハ地方ノ便利ニ依リ該組長ヘ協議指名出勤ヲ促ス事アリ如斯都合ニ於テハ無異議出勤スヘキ事但勤怠ヲ嚴ニシ遲參及怠慢者ハ日當ヲ減ズ

第四條 植林費用支辨ノ爲一ケ年金參拾錢宛各戸ヨリ毎年三月九月金拾五錢兩度組長ヘ十ケ年間引續キ出金組長ハ其組取纏メ最寄山林委員ヘ差出スコト但分家ハ其年ヨリ勉金ヌヘシ

第五條 山林委員ハ春秋兩度山林並苗圃ヲ巡視植付ケ下刈手入等ニ注意シ並區長ノ會計決算報告等ニ

立會スルコト

第六條 山林委員酬勞ハ壹年金參圓ツ、山林其他ヘ其他出張ノ時半日以上ヨリ其年人夫雇賃金同様ノ日當ヲ支給スル事但勤怠ヲ嚴ニシ分合ヲ以テ日當ヲ計算スヘシ

第七條 共有山(大字有)樹木繁殖加害者及盜伐人放火人ヲ取押ヘタル者ニハ賞トシテ金五圓ヲ遣ハスコト

第八條 山林ハ火災防禦之ヲ必要トス就テハ隣村ト規約ヲ結ヒ實行斟酌セサルコト

第九條 山野出火ノ時ハ見付ケ次第最寄組長山林委員ヘ急報即刻觸レ示シ壹戸壹人ツ、早々吾山消防スヘシ大火ノ時ハ其地方男子十七歳以上六十歳迄出勤スヘシ自己ノ我儘ニテ出勤セサルカハ又觸レヲ聞キ遲參セシモシハ該組長區長山林委員評議ノ上金五錢以上金三十拾錢以下ノ償金ヲ出サシムル事

但都合ニ依リ婦女出勤スルモ妨ナシ

第十條 共有山出火ノ時消防ニ盡力非常ト認メタルトキハ該組長區長山林委員評議ノ上酒貳升以上壹斗以下ノ賞ヲ與フル事

第十一條 山林委員ハ大字人民ニテ大字山地使用權ヲ有スルモノトス任期ハ最初六ケ年ト定メ壹人ハ滿四ケ年經過ノトキ抽籤ヲ以テ交替壹人ハ滿五年同斷以後ノ任期三ケ年トシ順次交替ノ事但滿期再撰スルモ妨ナシ

第十二條 山林委員任期中順番一ケ年ツ、主任トナリ金錢出納並帳簿ヲ整理スルコト

第十三條 山林委員選舉ハ六月中旬各五組協議ノ上伍長ニ於テ投票組長取纏メ最寄山林委員ニ可差出事



第十四條 大字財産會計ハ區長ノ分業事務ナリト雖今般協議ノ上林業ニ關スル會計ハ特ニ山林委員ニ於テ取扱ヒ毎年度限リ出納決算及山林ノ狀況等ヲ四月中ニ報告スル事

但決算報告書調製ハ區長ノ立會ヲ請フ事

右發起人區長組長評議ノ後各戸人民ハ協議取極候條堅ク相守リ違背致間敷候事

發起人七名

區長同代理者組長等二十四名連署

明治三十一年二月二十一日

○國界防火植木内規

第一條 毎年遠江ヨリ野火延燒スル三遠國界字大森城山黒淵ノ内田ノ島己ニ貸渡シ約定濟四ヶ辻界迄

第二ノ火防線ヲ作リ其内部ノ植木ヲ繁殖セシメシメガ爲貸渡スヘキヤ否協議候處大字下吉田各戸同等

人夫ヲ出シ來ル明治三十一年春ヨリ向フ五ヶ年間ニ長五拾壹町拾間巾貳拾間ノ處松檜ヲ植ヘ野火豫

防ノ爲毎秋彼岸前後下刈ヲナシ火防線タルヘキ森林ヲ作ルヘキコトニ評決候事

但巾貳拾間ト定マルト雖山林委員ノ見込ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第二條 毎年春植付ノ時壹人秋下刈ノ時一人合二人工各戸平等出勤スル者トス然レトモ植込下刈ノ場

所ニヨリ便利ト損益トヲ計リ山林委員ノ見込ニヨリ區長組長ハ協議ノ上一地方ヨリ引續キ出勤ヲ促

シ或ハ指名出勤等時宜ニ依リ取計フ雖五ヶ年間平均損徳ナカラシムルコト

第三條 松檜苗代並苗圃借受ケ代ハ各戸ヨリ出金セス共有山中立木代病氣或ハ無餘議事故有之植附下

刈欠勤ノ者金銭ヲ以テ代償セシ分ヲ以テ支拂ヒ又ハ本節苗圃生育ノ分ヲ請求下附アルニ於テハ各戸

主ハ割當テ各組ニテ生育セシメ植付ケノトキ銘々持參スヘキコト

但人夫賃代償ハ其年相當雇賃金並ミテ出サシムルコト

第四條 植付下刈ノ時各組々長ハ勿論伍長ニ於テ毎組出勤時間ヲ督促引率シ山林委員ヲ補佐事業ヲ整理セシムヘキ事

第五條 立木賣却代金ハ各戸同業ニ分配スヘシト雖此起業ニ組ミセス又ハ半途ニシテ出勤セス代償金ヲ出サシムル者ハ自ラ棄權スルモノナレハ分配金ヲ與ヘス已消ノ人夫賃ハ返却セサルコト

但分家ハ其年ヨリ出金スヘシ

第六條 方今巾貳拾間ト定ムト雖野火豫防ニ足ラス該事業成就ノ後今貳拾間ヲ増殖シ繁茂ノ後最初植

込廿間ノ立木ヲ賣却跡地ヘ植ヘ込ミ該樹成長ノ後殘リ貳拾間ノ立木ヲ賣却スヘシ如斯交互賣却スル

トキハ利益ヲ收メ野火防禦ニ足ルヘケレハ五ヶ年經過ノ後更ニ協議繼續スヘキ事

第七條 第八條第九條第十條ハ山林内規ニ同シ

明治三十五年四月十五日

發企人七名

區長同代理者組長等二十四名記名調印

◎山口縣吉敷郡ニ於ケル造林事業經營ノ顛末要領

山口縣吉敷郡ニ於テハ財産造成ノ目的ヲ以テ造林事業ヲ經營シ町村有地六町壹反九畝歩ニ地上權ヲ設定シ存續期間ヲ九十年ト定メ植付反別五町歩ニ杉檜五萬本ノ植附ヲ完成セリ其地代ハ立木拔伐及皆伐トモ立木賣拂代金百分ノ拾五以内ノ割合ヲ以テ賣拂ノ都度之ヲ仕拂ヒ其木材ヲ吉敷郡公共ノ用ニ供スル場合ハ該用材ノ評價ニ依リ右ノ比準ヲ以テ地代ヲ仕拂フモノトシ立木ノ儘全部賣拂フトキハ其代價百分ノ五以内ヲ仕拂フモノトシ前記ノ地代ヲ當該村ニ仕拂ヒタルトキハ直ニ村基本財産ニ編入セシムルコトト定ム其造林事業費ハ第一年目ニ於テ四百九拾八圓九拾七錢六厘第二年目ニ於テ百參拾四圓四拾錢九拾箇年ヲ通シテ總計參千五百參拾壹圓七拾七錢六厘ヲ要ス而シテ其造林年別價格ハ第十年目ニ於テ



貳千五百圓第五十年目ニ於テ七萬七千貳百六拾八圓第九十年目ニ於テ參拾萬七千六百七拾五圓貳拾錢トナルノ見込ナリ今年初年ヨリ九十年マテ造林一代經濟關係ヲ支出ト收入トニ區割シ表示スレハ全部伐採ノ終リニ於テハ支出元利金五拾四萬五千八百五拾八圓六拾錢貳厘ニ對シ收入金八拾八萬參千百參拾壹圓五拾錢六厘差引金參拾參萬七千貳百七拾貳圓九拾錢四厘即チ支出元利ニ對シ六割一步七厘餘ノ純益ヲ見ルニ至ル如斯造林事業ノ爲ニ費ス所僅カニ參千五百參拾壹圓餘ニシテ若シ之ヲ年七分ノ利ヲ以テ利倍増殖スルモノトセハ九十箇年後五拾四萬五千餘圓ヲ得ヘシト雖モ之ヲ造林事業ニ投セハ八拾八萬參千圓ノ巨額ヲ收ムルヲ得ヘシ些少ナル造林費ヲ投シテ斯カル莫大ノ收益ヲ得ルニ至ルハ普通貯金法ノ到底企テ及フ所ニアラス今地代トシテ收入ノ百分ノ五(金拾參萬貳千圓餘)ヲ控除スルモ尙單ニ利倍増殖スルニ比スレハ貳拾萬圓餘ノ增收ヲ見ルヲ得ヘシ又地元町村ニ交付シタル地代四萬六千圓餘ハ九十箇年後積ミテ拾參萬貳千圓ニ達シ町村基本財産トシテ其要部ヲ占ムルニ至ルヘシ尙本事業經營ノ顛末ニ關シ詳細ナル報告ハ載セテ明治三十五年七月十九日ノ官報ニ在リ

◎秋田縣ニ於ケル模範林ノ計劃

- 一 模範林ノ目的
  - 一 現在ノ民有林ハ荒敗ニ傾キ易キノミナラス多クハ天然林ニシテ一モ模範林ト爲スニ足ルモノナキヲ以テ之レカ模範林ヲ示サントスルニ在ルコト
  - 二 現在民間ニ於ケル植樹法ノ改良ヲ計ルニ在ルコト
  - 三 手入間伐ノ必要ヲ知ラシムルニ在ルコト
  - 四 林業ノ收利アルコトヲ知ラシムルニ在ルコト
  - 五 林業思想ヲ養成セントスルニ在ルコト

以上ノ目的ヲ達スル爲メ不要存置林野(國有ノ林野ニシテ總分調査ノ上拂下ケルモノナリ)約五千町歩ヲ買上ケ之レニ造林ヲ行フモノトス

二 設計ノ方法

- 一 模範林ハ少クトモ一ヶ所貳拾町歩以上トシ各郡ニ分置ス
- 一 模範林ノ位置ハ可成國縣道ニ近キ個所ヲ選定シ公衆ノ參觀ニ便ナラシム
- 一 模範林ニ植栽スヘキ樹種ハ杉、扁柏、落葉松ノ三種トス
- 一 植栽スヘキ苗木ハ何レモ二回床替ヲナシ滿三ヶ年生ニシテ健全ナルモノヲ用ユルモノヲ用ユルモノトス但落葉松ハ滿二ヶ年生トス
- 一 播種スヘキ種子ハ杉ハ秋田地方扁柏ハ吉野地方落葉松ハ信州地方ノキノヲ用ユルモノトス
- 一 毎年播種スル數量ハ杉一石二斗扁柏四斗六升落葉松五升ノ豫定トス
- 一 但シ三十五年度ノ播種ハ杉六斗扁柏二斗三升落葉松五升トス
- 一 苗圃ハ三十五年度ヨリ五十七年度ニ至ル向フ二十三ヶ年間設置スルモノトス其繼續費ノ總額貳拾貳萬六千圓ナリ
- 一 三十八年度ニ於テハ以上三種ノ苗木凡ツ七拾五萬本三十九年度以降ハ百四十二萬五千本ヲ得ルノ豫定トス
- 一 植栽ハ三十八年度ヨリ着手シ五十七年度ニ至ル向フ二十年間ニ結了スルモノトス
- 一 造林ハ一ヶ年二百五拾町歩宛施行シ之レカ植栽方法ハ方形植栽若ハ三角植栽ヲ用ユルモノトス
- 一 一ヶ年間ニ植栽スヘキ樹種及面積ノ割合ハ概畧左ノ如シ但杉、扁柏ハ一町歩六千本落葉松ハ三千本ノ豫定トス

杉 百八萬本 百八十町歩



扁柏 二十七萬本 四十五町步  
 落葉松 七萬五千本 二十五町步  
 但シ三十八年度ハ各樹種共一町步三千本ノ豫定ニ付杉五十四萬本扁柏十三萬五千本トス  
 一五千町步植栽スヘキ總本數ハ凡ソ二千七百八十二萬五千本トス  
 一各樹種ノ伐期ハ五十年ト假定ス  
 一主伐ハ八十七年度ヨリ始メ毎年百町步宛皆伐シ百三十六年度ニ至リ結了スルモノトス  
 一開伐ハ植栽後十ケ年目ヨリ着手シ以後伐期五十年ニ至ル迄五ケ年毎ニ施行スルモノトス其割合左ノ如シ

第一回乃至第四回 現在木一割  
 一杉 第五回第六回 全上一割五分  
 第七回 全上一割  
 第八回 全上一割二分  
 一落葉松 第一回乃至第五回 全上一割五分  
 第二回乃至第三回 全上一割五分  
 一扁柏 第四回第五回 全上一割  
 第六回 全上一割五分  
 一開伐ハ往々過伐ノ恐アルヲ以テ開伐ノ際ハ必ス吏員ヲ派遣シ一々開伐木ヲ指定スルモノトス  
 一手入ハ植栽後三ケ年間ハ毎年二回其後四ケ年間ハ毎年一回宛施行セシムルモノトス  
 一植栽後ノ手入開伐其他一切ノ保護ハ關係町村ノ費用ヲ以テ施行セシムルモノトス

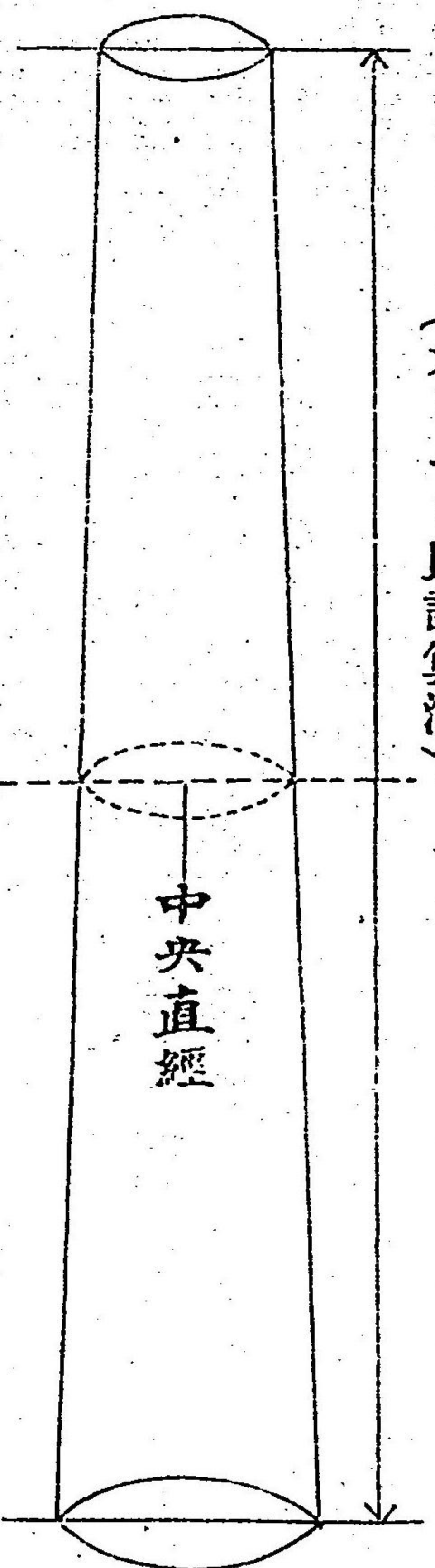
一模範林所在地ノ關係町村ニ於テハ森林巡邏ナルモノヲ置キ時々模範林内ヲ巡視セシメ火災盜伐其他異狀ナキヤ否ヤヲ觀察セシムルモノトス  
 一模範林内ニ於テ火災盜伐等其他被害アルトキ其都度關係町村ヲシテ縣廳ニ報告セシムルモノトス  
 一町村ニ於テ行フ保護ハ凡テ縣廳ノ指揮監督ニ基キ行ハシムルモノトス  
 一開伐收入ノ全部及主伐收入ノ二割ハ森林保護ノ報酬トシテ關係町村ニ附與スルモノトス  
 一三十五年度ハ北秋田、河邊及仙北ノ三郡ニ於テ各一ヶ所ノ苗圃ヲ設ケ之ニ保護舍ヲ置キ斯業熟練ノ者ヲ常住セシム  
 一三十五年度ニ於テ專門ニ苗圃ニ従事スヘキ職員ハ枝師一名及縣吏員一名トス  
 一三十八年度ヨリ造林ヲ開始スルヲ以テ全年度ヨリ更ニ適當ナル林業專門家ヲ置キ十分ナル監督ノ下ニ植栽ヲ行ハシムルモノトス  
 一縣廳ヨリハ時々吏員ヲ派遣シ模範林内ニ於テ其關係町村ノ住民ヲ集メ實地ニ付キ造林其他林業ニ關スル講話ヲナサシムルモノトス  
 一模範林成生ノ曉ニハ簡易ナル施業案ヲ編成シ右ニ基キ一切ノ施業ヲ行ハシムルモノトス  
 一縣廳ニ於テハ模範林臺帳ヲ備ヘ模範林ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルモノトス  
 一苗圃並ニ模範林ノ成績ハ縣報勸業報文其他特別ノ方法ヲ以テ公示スルモノトス

◎材積換算法  
 農商務省總務局統計課調  
 村積ノ單位ハ一定シ得ルモ材積計算法ニ至テハ調査ノ精粗樹種ノ如何ニヨリ又伐採木立木森林等ニ由リ其方法種々異ナルヲ以テ何レノ場合ニモ適用シ得ル最モ簡易明瞭ナル方法ヲハ取極メ難シト雖モ其大畧ハ左ニ記スルカ如シ其詳細ハ林學士柴田榮吉著木材立木尺計算法ヲ參照スヘシ  
 一尺計算法



用材ハ尺ゲヲ以テ單位トス即チ長サ二間ノ尺角ニシテ容積十二立方尺ヲ有スルモノ  
イ伐採シタル幹材積計算法

(フーベリ氏計算法)



$$\text{幹材積 (尺}^3\text{)} = \frac{(\text{中央直徑})^2 \times 0.7854 \times \text{長サ}}{12 \text{立方尺}}$$

備考 (中央直徑)<sup>2</sup> × 0.7854 ハ中央斷面積 0.7854 ハ  $\frac{\text{圓周率}}{4}$  ニシテ

長サ及直徑ハ尺ヲ以テ單位トス

全理ニヨリ幹材ヲ或ル長サチ以テ幾等分シ各中央直徑ヲ測定スルトキハ精密ナリトス即チ次ノ如シ

圓柱体

目通直徑

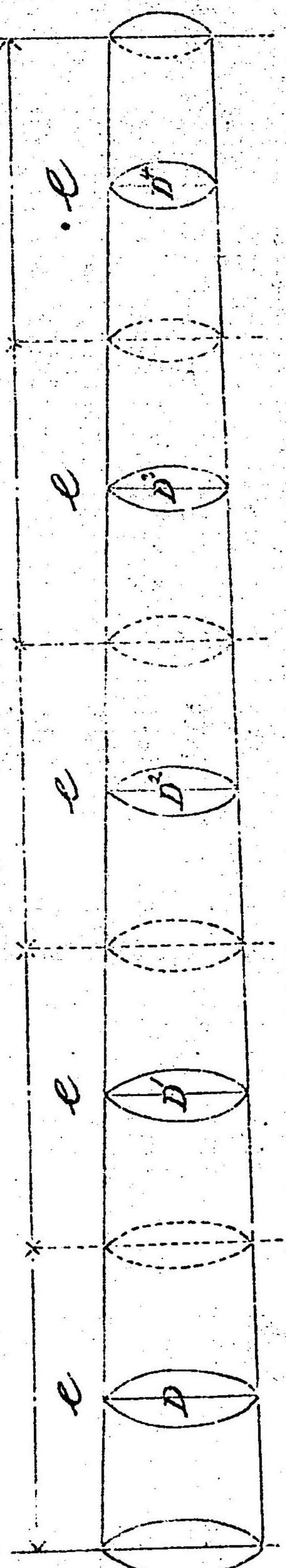


〇ハ等分シタル長サヲ示ス

D, D<sup>1</sup>, D<sup>2</sup>, D<sup>3</sup>, D<sup>4</sup> ハ各中央斷面積ヲ示ス

$$\text{幹材積 (尺}^3\text{)} = \frac{0 (D + D^1 + D^2 + D^3 + D^4 \dots)}{12 \text{立方尺}}$$

(ロ) 立木材積計算法  
(形數式法)



$$\text{樹幹材積 (尺}^3\text{)} = \frac{\text{樹幹ト全直徑ノ圓柱體積} \times \text{形數}}{12 \text{立方尺}}$$

$$\text{形數} = \frac{\text{樹幹ノ體積}}{\text{樹幹ト全直徑ノ圓柱體積}}$$

ニシテ直徑ハ普通目通直徑ヲ用フ

備考 形數トハ想像圓柱體ニ比較シタル樹木體積ノ割合ニシテ樹齡、樹種、地位等異ナルニ從ヒ一定セサルモノナリ此算法ニモ種々ノ方法アレトモ次ノ形數表ヲ用ユレハ實用上便利ナリトス



形數表 (林學士柴田榮吉調)

| 高  | 形數  | 高   | 形數  | 高   | 形數  | 高   | 形數  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 三〇 | 〇六〇 | 八〇  | 〇五二 | 一三〇 | 〇四九 | 一八〇 | 〇四六 |
| 三五 | 〇五七 | 八五  | 〇五一 | 一三五 | 〇四八 | 一八五 | 〇四六 |
| 四〇 | 〇五六 | 九〇  | 〇五〇 | 一四〇 | 〇四八 | 一九〇 | 〇四六 |
| 四五 | 〇五五 | 九五  | 〇五〇 | 一四五 | 〇四八 | 一九五 | 〇四六 |
| 五〇 | 〇五五 | 一〇〇 | 〇五〇 | 一五〇 | 〇四七 | 二〇〇 | 〇四五 |
| 五五 | 〇五四 | 一〇五 | 〇五〇 | 一五五 | 〇四七 | 二〇五 | 〇四五 |
| 六〇 | 〇五四 | 一一〇 | 〇四九 | 一六〇 | 〇四七 | 二一〇 | 〇四四 |
| 六五 | 〇五三 | 一一五 | 〇四九 | 一六五 | 〇四七 | 二一五 | 〇四四 |
| 七〇 | 〇五三 | 一二〇 | 〇四九 | 一七〇 | 〇四七 | 二二〇 | 〇四三 |
| 七五 | 〇五三 | 一二五 | 〇四九 | 一七五 | 〇四七 | 二二五 | 〇四三 |

備考 本表ハ松、杉、樅、扁柏、蝦夷松、檜等數種ノ形數ヲ平均シタルモノナリ

(ハ) 森林材積計算法

一 (形數法)

森林材積ヲ算定セシニハ先ツ尺度ヲ以テ各林木ノ目通直徑ヲ測定シ其直徑ノ同シキモノヲ集メテ直徑級ヲ作り各級一本ノ目通圓面積ニ各級ノ本數ヲ乘シ之レヲ合計シテ全林木總底面積ヲ得之レニ全林木平均高及ヒ形數ヲ乘シ得數ヲ十二立方尺ヲ以テ除スレハ尺ハ材積ヲ得



二 (標準地法)

前項ノ法ニヨレハ毎木調査ヲナスモノナレトモ森林ノ區域廣大ナルトキハ毎木調査ハ非常ノ時間ヲ要シ且ツ容易ノ業ニ非ス故ニ場合ニヨリテハ本法ヲ用ユルヲ適當トスルモ其標準地選定ノ如何ニヨリテハ材積ニ相違アルヲ免カレス

即チ或ル一部分ノ標準地ヲ選ビ之レカ材積ヲ算定シ之レニ總面積ト標準地面積トノ比ヲ乘シ得數ヲ十二立方尺ニテ除スルトキハ尺ハ材積ヲ得殊ニ薪炭林ノ如キハ標準地内ノ立木ヲ皆伐シ之レテ柵ニ積立柵數ヲ計リ本法ニヨルヲ便トス

(ニ) 薪炭材ノ計算法

薪炭材ハ柵ヲ以テ單位トス各地多少ノ差異アリト云ヘトモ普通長サ三尺ノモノヲ高サ六尺幅六尺ニ積立テタルモノヲ一柵トス其層積ハ百〇八立方尺即チ九尺ハ材積有スルモノナリ然レトモ間隙アルヲ以テ其實積ハ三分ノ一減スルモノト見做シ六尺ハ材積ヲ以テ一柵トス故ニ或ル尺ハ材積ヲ六尺ハ材積ヲ以テ除スレハ柵數ヲ得ルモノトス

(ホ) 繩ノ計算法

長サ三尺ノモノヲ長サ三尺ノ繩ヲ以テ結束シタルモノヲ用ユ之レヲ一束トス

愛知縣山林會

●大日本山林會第十五回總會ヲ昨年十月當名古屋市ニ開會シテヨリ縣民一般益々林業ノ志想ヲ高メ兼テ設立シアル本縣山林會モ此際一層ノ熱心ヲ以テ會務ノ擴張ヲ計ルト云フ因ニ全會規則ハ左ノ如シ

愛知縣山林會規則

第一條 本會ハ愛知縣山林會ト稱ス



第二條 本會ノ事務所ハ愛知縣廳内ニ設置ス

第三條 本會ハ森林ニ關スル學術ノ原則實業ノ方法ヲ攻究シ林業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センカ爲メ集會ヲ開キ演說講話議事等ヲ爲シ又報告ヲ發刊シテ會員ニ願フ

第五條 集會ハ大會及小會ノ二種トシ大會ハ毎年一回之ヲ開キ小會ハ便宜ニ依リ時々之ヲ開ク

第六條 報告ハ愛知縣山林會報ト稱シ年二回之レヲ發刊ス

第七條 本會ノ目的ヲ贊成スル者ハ何人ト雖トモ本會ノ會員タルコトヲ得

第八條 會員ハ林業上ニ關スル意見及質問等ヲ本會ニ提出スルコトヲ得

第九條 會員ヲ分テ特別會員及通常會員トス

特別會員ハ會費トシテ一ケ年金五拾錢通常會員ハ一ケ年金貳拾錢ヲ本會ニ納ムルモノトス但シ一時ニ金五圓以上ヲ納ムル者ヲ終身特別會員トシ金貳圓以上ヲ納ムル者ヲ終身通常會員トス

第十條 會員ニシテ事故ノ爲メ退會センスルトキハ會員證ヲ返納スヘシ

第十一條 本會ニ功勞アル者又ハ學識名望ヲ有シ本會ノ目的ヲ贊成スル者ヲ推選シテ名譽會員トス

名譽會員ハ會費ヲ納ムルコトナシ

第十二條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會 頭 一 名
- 二 副 會 頭 一 名
- 三 幹 事 一 名
- 四 評 議 員 若干名



第十三條 會頭及副會頭ハ評議員會ニ於テ之ヲ推選ス

會頭ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補助シ會頭事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第十三條 幹事ハ特別會員中ヨリ會頭之レヲ選任ス

幹事ハ會頭ノ指揮ヲ承ケ會務ニ從事ス

第十四條 評議員ハ特別會員之ヲ互選ス

評議員ハ本會ニ關スル重要ナル事項ヲ商議スルモノトス

第十五條 役員ノ任期ハ二ケ年トス但滿期再選スルコトヲ得

第十六條 本會ニハ役員ノ外臨時必要ナル場合ニ於テ委員ヲ置クコトヲ得

第十七條 委員ハ評議員會ニ諮リ會員之ヲ囑托ス

委員ハ本會ニ關スル事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ會務ニ從事ス

第十八條 役員及委員ハ總テ名譽職トス但シ報酬ヲ受クルコトヲ得

第十九條 本會ニ書記ヲ置キ幹事ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事セシム

書記ハ有給トシ會頭之レヲ任免ス

第二十條 本會ノ收支豫算ハ毎年評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二十一條 本會ノ收支決算ハ毎年度ノ終ニ於テ評議員會ニ報告ス

前項ニ依リ報告シタル事項ハ本會々報ニ登載スルモノトス

第二十二條 特別會員三十名以上ヲ有スル郡市ニ在リテハ郡市部會ヲ設クルコトヲ得

第二十三條 部會ハ愛知縣山林會何郡市部會ト稱ス

第二十四條 部會ハ適宜部會ノ規則ヲ定ムルコトヲ得



部會規則ハ會頭ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十五條 部會ハ每年本會ヨリ定額ノ補助金ヲ受クルコトヲ得

前項ノ補助金額ハ第八條第二項ニ依リ部會員ヨリ本會ヘ納ムヘキ總會費金ノ半額トス

第二十六條 部會ハ毎月部會員ノ異動並ニ部會ニ關スル重要ノ事項ヲ本會ニ報告スヘシ

第二十七條 此規則ハ評議員會ノ議決ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

明治三十五年一月

愛知縣 山林會

第八章 森林法

(明治三十年四月六日  
法律第四拾六號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林國有林部分林公社株及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山岳其他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其經濟ノ保護ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命

スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其費用ヲ徵收シ又ハ其造林ニ係ル部分

部分林ト爲スコトヲ得



第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

### 第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壤崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
  - 二 飛省ノ防備ニ必要ナル箇所
  - 三 水害、風害潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
  - 四 積雪墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
  - 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
  - 六 漁附ニ必要ナル箇所
  - 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
  - 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
  - 九 社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所
- 第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲メ地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其立木ノ伐採土石切芝ノ採取樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セ又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ

政府ニ於テ之ヲ行ヒ其費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但御料林園有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林風致林又ハ伐木停止林ハ此法律施行ノ日ヨリ保安林トシテ其森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノ、使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス



第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲スコトハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯

サントスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰 則

第三十七條 森林ニ於テ其主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ貳圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ

十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但罰金

ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ貳圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上

二年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ木炭樟腦椎茸松根油其他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰煉化石、瓦其他物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ貳圓以

上贓額貳倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其

自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ貳圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木木材又ハ根株ニ附シタル記號印章變更若ハ削除シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰

金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得シテ森林ヲ開墾シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林

又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其伐採

シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處

ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五拾圓以上ノ科料ニ處ス



第五十一條 此法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス  
第六章 雜 則

第五十二條 此法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦樟腦油繭其他樹木ノ脂液及木炭ハ  
贓物ト見做ス

第五十四條 此法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅滯納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ制  
限ヲ定メ造林ヲ命ズルコトヲ得其造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ二十五ヶ年以内  
地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山岳又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此  
法律ヲ適用ス但保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

明治三十六年六月十八日印刷

明治三十六年六月二十四日發行

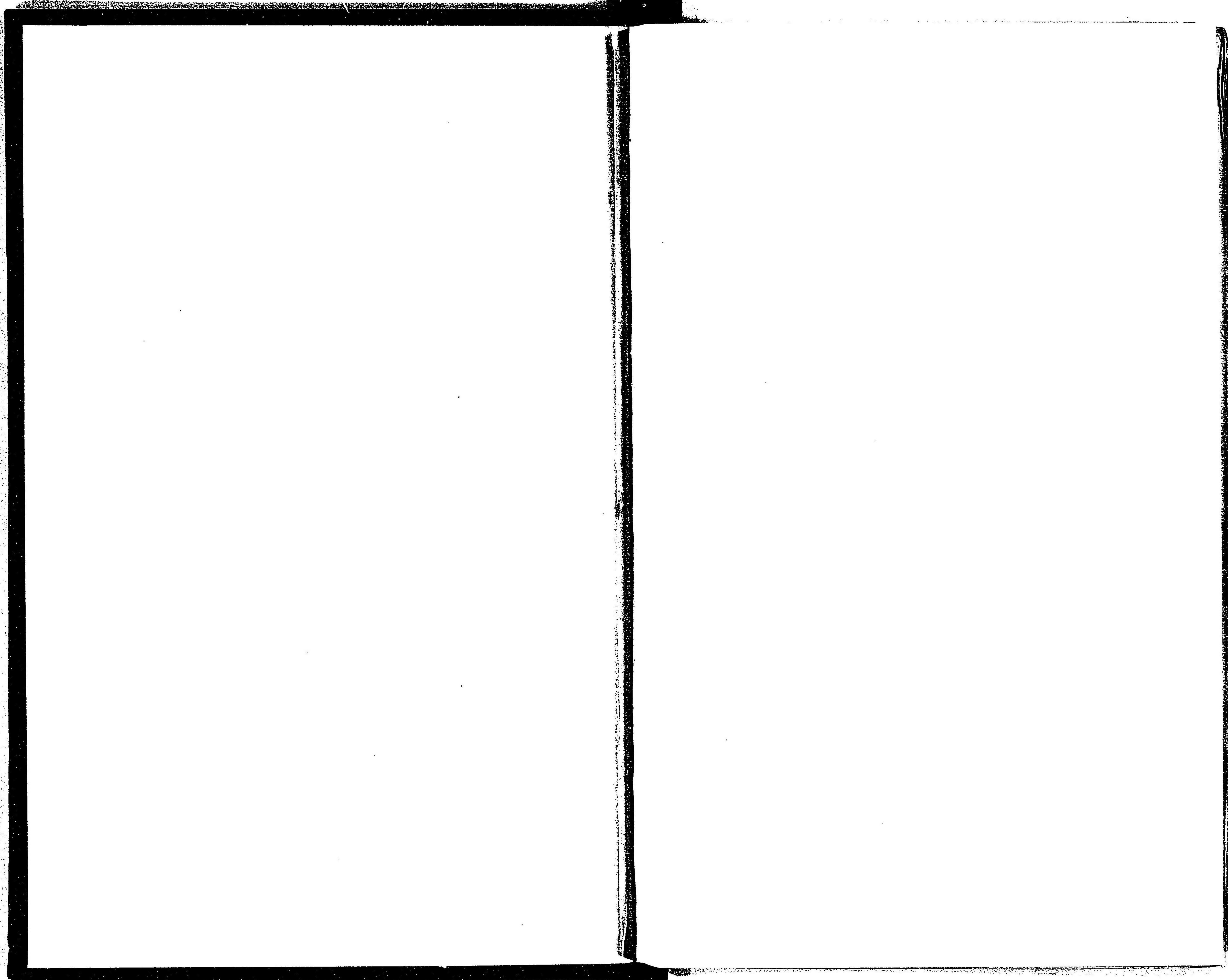
愛 知 縣



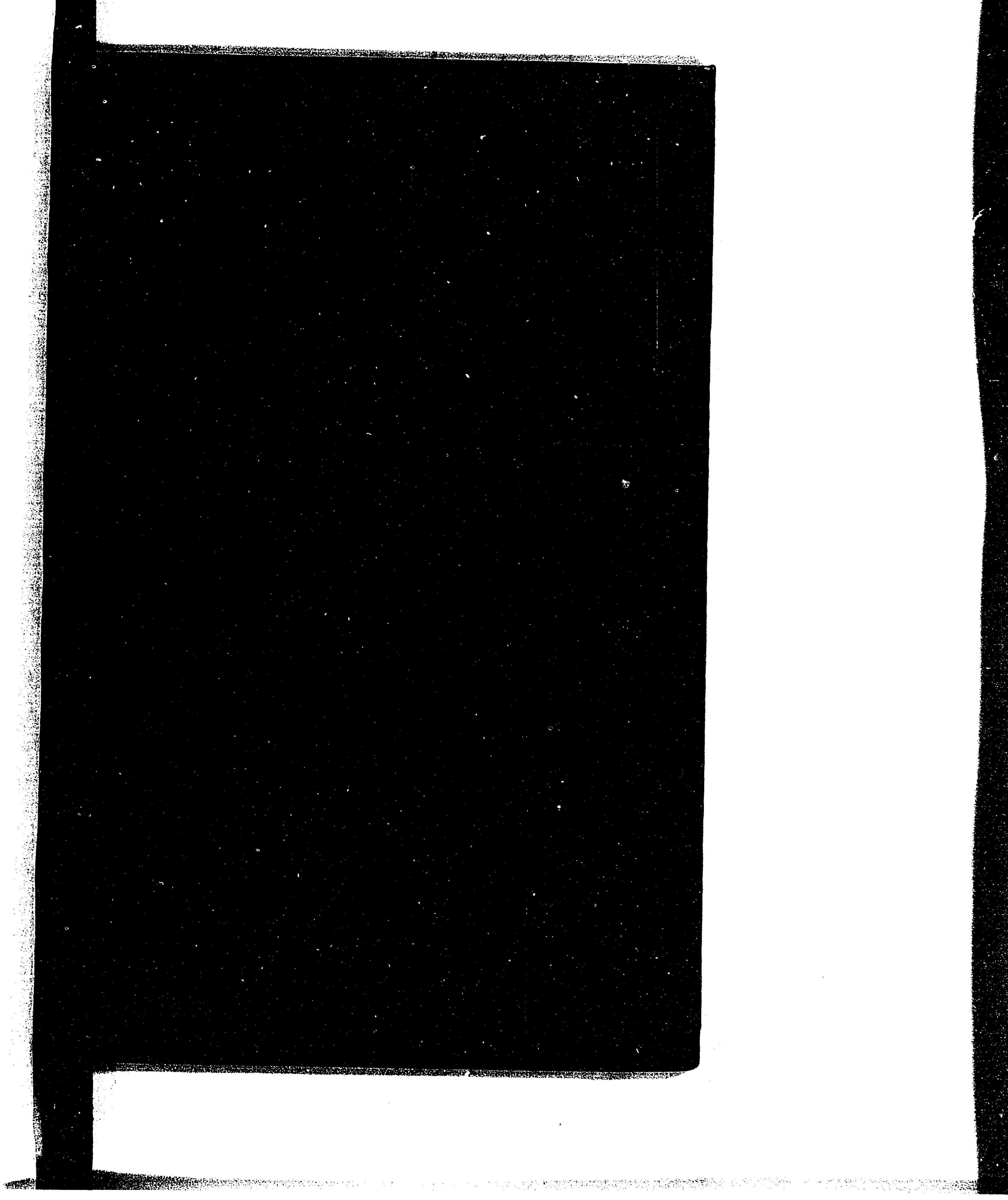
18/11/8

14











74  
327

(M)

042419-001-5

74-327

愛知県林業報告

愛知県

第1, 2, 4, 7-9

M36-45

BDJ-0002

